

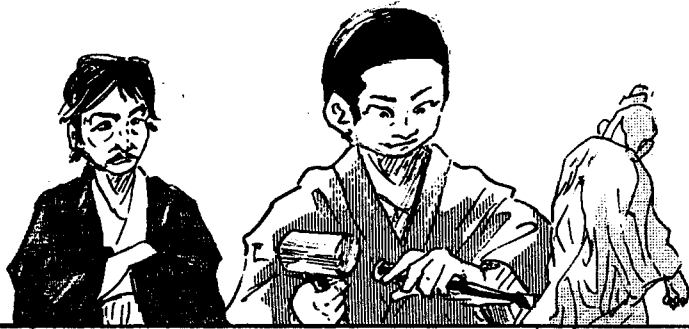
# 田中彫刻記

でんちゅうちょうこくき

にほんちゅうこくかいけっせい  
第五話 ~日本彫刻会結成~

Takashi

作 ©いとうたかし



※俣太郎の姓は、14歳の時に養子に入ったため、

田中から平櫛に変わっています。



高村光雲の紹介により、  
米原雲海、山崎朝雲、  
滝澤天友、森鳳聲、  
加藤景雲、それに  
平櫛俣太郎の6名が  
岡倉天心の元に集まりました。



明治40年  
秋も深まった  
ある日の夜…



売れるようなものばかり  
作るから売れないのです

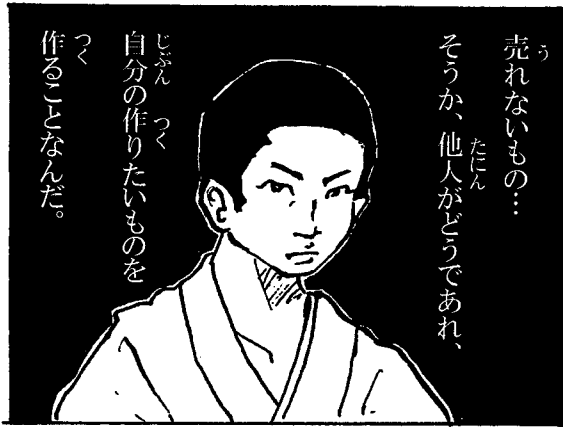
諸君は…



俣太郎たち  
は、夜を徹して  
芸術の話に  
花を咲かせ  
ました。



とさうで  
天心先生、  
どうも彫刻が  
売れません。  
売れるには  
どうしたら  
よろしいでしょうか



売れないものをつく  
自分の作りたいものをつく  
作ることなんだ。

売れないもの…  
そうか、他人がどうであれ、  
他人がどうであれ、



売れないものを作りなさい。  
そうすれば必ず売れます。



その年、日本の彫刻を  
発展させるべく、  
岡倉天心を会長として、  
日本彫刻会が  
結成されました。

6名の彫刻家たちは  
天心の期待にこたえるために、  
一生懸命に作品を作りました。



展覧会は評判がよく、  
この「活人箭」にも  
関心が集まりました。



翌年明治41年  
日本彫刻会  
第一回目の  
展覧会に、  
俣太郎は  
「活人箭」という  
作品を出品しました。